

令和4年度広島平和記念式典中学生派遣事業

～想いを**感じる** 次世代に**伝える**～

「あの日」から77年が経過し今年も迎えた8月6日。1つの爆弾によって奪われた日常、笑顔、命。広島を訪れた2日間、当時の状況、人々の願いなどを学ぶことで「平和」について改めて考え、次の世代に受け継いでいきます。



磐田市は、平成21年4月1日に世界平和の実現を強く希求し、「核兵器廃絶平和都市宣言」を制定しました。これを受け、平成22年度から毎年8月6日に広島市で開催される広島平和記念式典に中学生を派遣、平成25年度からは小学生も加え、これまでに延べ11回、約280人の小学生を派遣してきました。

この派遣事業は、これからの時代を築いていく子どもたちに、実際に広島を訪れ平和記念式典に参加し、「戦争」と「平和」を感じてもらおうと、この地を見て、聞いて、湧き上がる思いを周りに、そして次世代へ継承してもらうために実施しています。

今回は新型コロナウイルスの影響で中学生のみの派遣となりましたが、各校の代表生徒11人が学校の授業だけでは学ぶことができない「平和の尊さ」「戦争の壮絶さ」などを2日間にわたり現地学び、理解を深めました。

桜が伝える戦争の記憶

爆心地から北に約2kmの安田女子高校には「被爆桜」と呼ばれる桜があります。この桜は75年間は草木が生えないと言われた被爆地で、翌年の春に見事な花を咲かせ今日に至ります。

第1回派遣事業の際に、同校の生徒と偶然話をしたことがきっかけで被爆桜の苗木をいただき、それから毎回訪問をさせていただく縁になりました。現在、いただいた被爆桜は市内の小中学校やかぶと塚公園に6本植え

られており、春に美しい花を咲かせます。

生徒たちは同校の生徒会から被爆桜についての説明を受けると、幹に触れ、平和に思いを馳せていました。



被爆地で感じる

8月5日(金)、広島市の平和記念公園と平和記念資料館を訪れました。この時期は、この地域一帯が平和への思いであふれています。現地では感じる事ができない雰囲気の中、爆心地や原爆ドームなどを見学しました。ボランティアガイドからの当時の様子についての説明をメモを取りながら熱心に聞く生徒の眼差しは真剣そのものでした。

平和記念資料館には、被爆者が実際に身に着けていた衣類や被災した広島街並みの写真などが展示されており、生徒たちは原爆の恐ろしき、戦争の爪痕などを目の当たりにしました。

園内の原爆の子の像では、平和を願って生徒たちが折った千羽鶴を奉納しました。



平和記念式典に参加して感じる

8月6日(土)、午前8時から
平和記念公園で被爆者、遺族、
国内や世界各国から合わせて
2854人が参加して平和記
念式典が開催さ
れました。

式典では広島
市長による「平
和宣言」が読み
上げられた後、
地元の子ども代
表による「平和
への誓い」を
聞きました。ス
ピーチにあった
「過去に起こつ
たことを変える
ことはできませ



ん。しかし、未来は創ること
ができます」という言葉は、
磐田の子どもたちの心に深く
響いたことでしょう。

原爆が投下された時刻と同
じ午前8時15分には原爆死没
者への追悼と世界恒久平和を
祈り「黙とう」が行われ、生

徒たちも周りが
静まった厳かな
雰囲気の中、強
く祈りを捧げま
した。

式典に参加し
た生徒からは
「一生に一度、
経験できるかど
うか分からない
ような非常に貴
重な機会です
た。国内だけで
なく世界各国か

らも参加者がいて、世界の平
和に対する意識を感じることに
できました」との感想が聞
かれました。

磐田市平和祈念式で伝える

平和への想い
松島 琢哩さん(豊岡中)

広島平和記念式典への派遣
を受けて、自分の中で大きな
変化がありました。それは「平
和に対する考え」です。

今まで平和とは「何不自由
なく暮らすことができ、悲し
みや苦しみが無いこと」だと
思っていました。しかし、い
ろいろなことを見聞きしてい

くうちに、その考えが少しず
つ変わっていききました。今、
私が思う平和は「戦争と核兵
器のない世界」です。今日の日
本は戦争は起きていません
が、「過去」にあったという
ことは決して忘れてはなりま
せん。そして二度と繰り返し
てはいけません。

私たちにできることは、後
世に繋いでいくことです。た
だ伝えるだけでなく、伝え続
けることで、平和に対する思
いを人々に持たせることも重
要です。

「歴史に『if』はない。」そ
れすなわち未来は変えられる
ということです。人類の歴史
上、初の被爆国である日本。
この出来事がこれで最後にな
ることを強く願います。

(スピーチから抜粋)

広島派遣を通して感じたこと、伝えたいこと

今までも「戦争はしてはいけない」「平和は大切」と感じていたけど、2日間でこの言葉の重みを体感し、平和のために自分は何をすべきか考えました。

河合 沙奈さん（磐田第一中）

「戦争」が無い世界を「平和」だと思っていましたが、「平和」な世界の実現を目指すことで「戦争」が無くなっていくのだと考えるようになりました。

山崎 温輝さん（城山中）

今の私たちの暮らしが平和だと理解することが平和のために必要だと思います。そのため2日間で学んだこと、考えたことを周りの人に伝えたいです。

多田 杏羽さん（向陽中）

広島平和記念資料館で当時の写真などを見て、人々の悲しさや戦争の悲惨さを学ぶことができました。戦争は絶対に繰り返してはいけないと思いました。

石間 来愛さん（神明中）

日本でできている当たり前の暮らしが、できない国はたくさんあります。「当たり前」は「当たり前」ではなく尊いものだというのを伝えたいです。

永井 実結さん（南部中）

戦争や平和をどこか他人事のように感じていたけど、人類一人一人に課せられた課題が「戦争を無くすこと」だと分かりました。

福川 大智さん（福田中）

名前の刻まれた慰霊碑を見て、「大切な人を忘れたくない」という思いと、1発の原子爆弾がどれだけ多くの幸せを奪ったか改めて実感しました。

大原 孝太さん（竜洋中）

広島に行つて感じたことをできるだけ多くの人に伝えたいです。それを聞いた人が次の人へ伝えるところ「平和の連鎖」が起きて欲しいです。

飯田 光里さん（豊田中）

以前は世界から戦争を無くせば世界平和になると思っていたけれど、戦争を無くして平和の状況が続いていかなければならないと思いました。

中本 佑馬さん（豊田南中）

ただ戦争が終わるだけでなく、戦争が無くなって、被害に遭った人たちの想いが報われて初めて平和が訪れるのだと思いました。

鈴木 千穂さん（磐田東中）

